

神の守り 詩篇 91:1-16

2021. 6. 6 (水無月) 丘上 NO. 659

春日部福音自由教会 山田豊

コロナ禍にあって、教会の大切な礼拝や交わりだけでなく、多くの行事、特にお祭りや宗教行事も中止や延期になったり、規模を縮小して行われています。私たちが知っている祭りの起源の多くは、疫病退散、災いをもたらすものを追い払う営みから生まれています。趣旨からいえば、多くの人たちが集まり、今こそ祭りや儀式を活発にすべきなのです。しかし、それはできません。そのような行為をしたところでは、クラスターが発生したり、地域の人たちから「あれは非常識なことをしている人たちだ」と見られてしまいます。理由はお分かりの通りです。

詩篇 91 には、あらゆる災いから神様は私たちを守り、救い出してくださることが詠われています。神は私たちを守る砦であり、避難所であり、大盾です。また、鳥が翼を広げて子供たちを守るように、わたしたちも神様の翼の陰にかくまわれているのです。その神様に信頼することを勧めるみ言葉です。

しかしながら、神の守りを信じ、信頼しているならば、自分の思い通りにふるまっていいいのでしょうか？教会だから、クリスチャンだからと言って、マスクもつけずに集まり、交わりと称して会食をしながらしゃべっていても感染しない、といえるのでしょうか。神は人にお互いを思いやり、命を大切にするために具体的にどのようなしたらよいか、その知恵を授けてくださいました。そこから生まれた行動様式に従うことは、神様の思いを実現することに他なりません。

コロナ禍にあってその対応は、キリスト者個人や教会によって違うでしょう。ワクチン接種についてどう考えるかということも、人によって違うでしょう。そこには副反応といったリスクなどがあることを知りながら、自分は接種を受けるつもりです。ある集団の半数以上(6割から7割といわれている)が感染(含むワクチン接種)することによって集団免疫が獲得されれば、感染は収束に向かうからです。他の人が感染したために、自分はそれを免れたともいえるのです。収束のために協力することができるなら、それは人の命を守ることに繋がります。たとえ自分の身に思いがけないことが起きたとしても、ある意味かまいません。神様の守りがあり、神様を信頼申し上げているからです。

新しい生活の行動様式は、神の守りがあることを信じ、秩序を持って過ごすということではないでしょうか。

いかに恐るべき ことありとも

御翼(みつばさ)の陰は 安らかなり

愛の神は いかなる時にも

頼るなが身 保護し給わん

(新聖歌 311)

引用聖句

詩篇 39:10 どうかあなたのむちを取り去ってください。あなたの手に打たれて私は衰え果てました。

出エ 12:23 【主】はエジプトを打つために行き巡られる。しかし、鴨居と二本の門柱にある血を見たら、【主】はその戸口を過ぎ越して、滅ぼす者があなたがたの家に入って打つことのないようにされる。

マタイ 4:5-7 すると悪魔はイエスを聖なる都に連れて行き、神殿の屋根の端に立たせて、こう言った。「あなたが神の子なら、下に身を投げなさい。『神はあなたのために御使いたちに命じられる。彼らはその両手にあなたをのせ、あなたの足が石に打ち当たらないようにする』と書いてあるから。」イエスは言われた。『あなたの神である主を試みてはならない』とも書いてある。」

ルカ 10:19 確かにわたしはあなたがたに、蛇やサソリを踏みつけ、敵のあらゆる力に打ち勝つ権威を受けました。ですから、あなたがたに害を加えるものは何一つありません。

ヨハネ 17:15 わたしがお願いすることは、あなたが彼らをこの世から取り去ることではなく、悪い者から守ってくださることです。

2020 年オーバーアマガウのキリスト受難劇は 2022 年に延期

<延期の趣旨 要約>

第 42 回オーバーアマガウのキリスト受難劇(パッションプレイ)は、コロナウィルスのパンデミックを受け、2022 年に延期します。これは、ガルミッシュ・パルテンキルヘンの行政区役所が、観客と参加者の安全が第一に優先されるべきとの考えから上演を禁止したことに従っています。数か月の延期での開催は、関係者全員にとって不可能と思われる。

オーバーアマガウ受難劇は、オーバーアマガウの村人がこれ以上ペストで亡くなることがないように、1633 年、村人がキリスト受難劇を演じることを誓ったことに始まります。現在まで、受難劇の中止やキャンセルは何度かありました。第 1 次世界大戦の影響で 1920 年予定の受難劇は 1922 年に延期され開催。1940 年の受難劇は第 2 次世界大戦で中止となっています。

2020 年のオーバーアマガウキリスト受難劇(パッションプレイ)は、5 月 16 日～10 月 4 日まで全 103 回の上演が予定されていました。パッションプレイ劇場は 4500 席有する大規模な野外ステージです。世界中から 45 万人の訪問が見込まれていました。

オーバーアマガウ受難劇公式ホームページ(英語)より 2020 年 3 月 19 日 奈良東大寺、通称「お水取り」

新型コロナウイルス感染症の拡大防止に対し、東大寺では医師など専門家の皆さまのご助言も参考にし、信仰を寄せていただいている皆様、並びに参籠する練行衆や寺職員等の安全と感染拡大防止のため、修二会のお松明拝観を下記の通り一部制限させていただくことと致しました。

(中略)

何れの日も予約の必要はありませんが、堂内や局(つぼね)での聴聞も出来ません。

全ては信仰を寄せていただいている皆様と法会に関わる練行衆・参籠衆の感染予防、並びに 1270 回目の修二会の無事遂行・満行のためですので、今回はなるべく拝観をお控えください。

我々は歴史を途絶えさせることのないよう最大限努めますので、皆さまのご理解とご協力をお願い致します。

＜東大寺公式サイトより＞

アンブロワーズ・パレ

Ambroise Paré,(1510 年 - 1590 年 12 月 20 日)は、フランスの王室公式外科医。近代外科の発展において重要な功績を残した。また、整骨術に関する著書はオランダ語訳を経て華岡青洲の手に渡り日本の外科医療に多大な影響を与えた。医学史家から「優しい外科医」と評され、自身も「我包帯す、神、癒し賜う」という言葉を残している。